第11回男子世界選手権アジア地区第1次予選

日本　世界選手権出場権を得られず　アジア地区予選で敗れる

来年2月から3月にかけてスイスで開催される、第11回男子世界選手権大会のアジア地区の第1次予選は、10月14日から16日まで日本、韓国、中国の三カ国が参加して、韓国のソウルで開催された。ロサンゼルス・オリンピック以後大きくメンバーを入れかえた〝新生全日本〟にとって最初の難関だったが、結果は、残念ながら1分1敗という内容で、世界選手権への出場権を得ることは出来なかった。

これまでアジアのチャンピオンを誇ってきた日本男子にとって、3年前のアジア大会で中国に敗れ、また、一昨年のアジア選手権で韓国に敗れて以来の苦境となったが、韓国、中国の進境に対し日本チームの力は明らかに停滞、あるいは低下が見られ、これまでにない苦境に立ったことは否めない。

これからどのようにしてこの苦境を突破していくのか、ナショナルチームだけでなく、日本ハンドボール界全体が一丸となって立ち向う必要があるのではないだろうか。

なお、このブロックは、結局韓国が2戦全勝で第1位となりもう一方のブロックの代表クウェートと世界選手権出場を賭けて戦うことになった。

〔試合結果〕

韓国 33（18–12, 15–14）26 日本

	日本	得
GK	井藤	0
GK	大畑	0
FP	西山	5
FP	藤井	1
FP	志賀	0
FP	奥田	0
FP	立木	3
FP	玉村	4
FP	田口	0
FP	荷川取	1
FP	酒巻	4
FP	首藤	8
		26

	韓国	得
GK	Yoon, Tae-il	0
GK	Lee, Kyung-Mo	0
FP	Kim, Jae-Hwan	6
FP	Shin, Young-Suk	1
FP	Park, Do-Hun	2
FP	Park, Young-Dae	0
FP	Koh, Suk-Chang	2
FP	Lim, Jae-Sik	0
FP	Hwang, Yo-Na	0
FP	Choi, Tae-Sup	6
FP	Kang, Jae-Won	7
FP	Lee, Sang-Hyo	9
		33

日本 26（13–15, 13–11）26 中国

	中国	得
GK	Shan Shuo	0
GK	Yu Wei	0
FP	Bai Yishun	4
FP	Wei Heping	3
FP	Xue Mancang	0
FP	Ren Libin	1
FP	Jiang Shanming	9
FP	Zhao Zhiwei	7
FP	Xu Xubo	2
FP	Zhai Wenming	0
FP	An Futian	0
FP	Hu Weidong	0
		26

	日本	得
GK	井藤	0
GK	矢内	0
FP	西山	3
FP	藤井	0
FP	志賀	0
FP	朝生	7
FP	立木	0
FP	玉村	7
FP	田口	0
FP	荷川取	1
FP	酒巻	0
FP	首藤	8
		26

韓国 30（16–17, 14–9）26 中国

韓国を倒せず、世界への夢を絶たれた全日本チーム

男子世界選手権アジア予選を終えて

渡辺強化部長に聞く

男子世界選手権のアジア地区予選で日本は残念ながら敗退してしまったが、帰国早々の渡辺強化部長に、今回の予選の様子と今後の見通しについて聞いてみた。

これから大きな手応えをつかんだ

―予選を終えられたばかりでお疲れの所すみませんが、少しお話しをお聞かせ下さい。

まず、予選を終えられた今現在の心境からお話しいただけますか。

渡辺　やはりこうした結果になったことは残念であり、応援していただいたみなさんには申し訳ないと思っています。

しかし、負け惜しみに聞こえるかもしれませんが、これからへの手応えもつかんで来たように思います。

―それはどういった点ですか。

渡辺　昨年のロサンゼルス・オリンピックの後、全日本のメンバーを一新してソウル・オリンピックを目指して再出発を計りました。しかし、残念ながら新生全日本の船出は厳しいものでした。今春のスポーツフェアなどで戦った中国との2試合は、1分1敗という結果であり、まだまだこれからというチームの状態でした。

また、6月の事件など……。

こうした厳しい状況の中からよくぞここまで立て直すことが出来たというのが実感です。それには、野田君の方針を引きついでよく選手たちをまとめてくれた津川、佐藤両コーチの努力によるところが大きく、両君には大変感謝しています。

また、新生全日本のピンチに際して急拠カムバック、若手選手たちをよく引っ張ってくれた大畑、志賀両選手の力によるところも多大だと思う。

―そうした苦しい状況の中で臨まれた今予選ですが、どのような目標で臨まれたんでしょうか。

渡辺　正直申し上げて現在のチーム力の状況では、韓国に勝つのは大変厳しいだろうことは覚悟していました。とにかく韓国は十分な練習量と国をあげての盛り上がりで支えられており、ロサンゼルス・オリンピック当時に比べさらにチーム力が向上していると思われました。

一方中国だが、春に戦った時は、僅かだが日本よりはチーム力が上だと思いました。この中国を何とか倒し、ソウル・オリンピックの予選での最大のライバルに優位に立ちたいと考えていました。

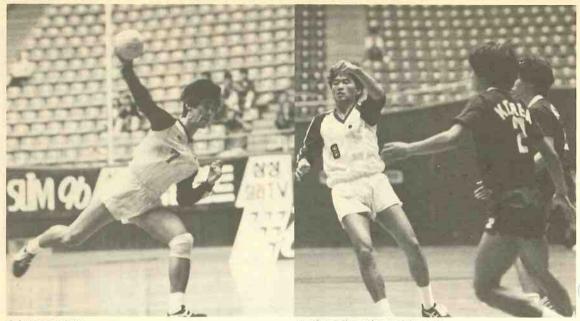
結果的には引き分けに終わりましたが、内容的には日本が勝っており、これが今後の展望に大きな確信となることを希望しています。

勝てていた対中国戦

―では、まず第1戦の韓国との試合内容からお聞かせ下さい。

渡辺　前半開始早々韓国2番にポストから決められて先制されましたが、すぐに首藤がフェイントから決めて同点にして、その後も一進一退の展開。このあたりベンチで、〝韓国もたいしたことないな、これはいけるぞ〟といった感じで見ていました。

結局、前半終了間際に1点を奪われて14対15と韓国の1点リードで前半は終わりました。

後半は、開始早々日本が同点に追いつき、すぐに韓国が再びリードを奪うという立ち上がりでした。しかし、5分過ぎぐらいから次第に日本の動きが悪くなり、韓国の得点ペースが上回ってじりじりと引き離され始めました。日本のミスを速攻につなげるなどして韓国が着々と得点するのに対して、日本はディフェンスの動きが悪くなると攻撃のリズムも崩し、結局残り5分頃には29対21と完全に勝負を

速攻からの立木のシュート　　いいものを見せて来た玉村だったが

決められてしまいました。
　終盤はいくらか反撃を見せたんですが、中盤の失点が大きすぎました。

―― 韓国チームの印象はいかがでしたか。

渡辺　今回の三カ国の中で平均身長は一番小さいと思いますが、自分たちの特性をよく理解した上で自分たちのチームの特長をよく作り出していると思います。
　それは、大変シャープな感じで、スピードのある動きというものです。
　ロス五輪当時とそうチームの内容は変っていないと思いますが、ディフェンスは少しづつよくなってきているようです。攻撃力はもちろん自信を持っていますが、ディフェンス力もついてきて、次第に攻撃オンリーのイメージから脱しつつあるようです。
　ディフェンスは1・5から2・4のピストンで、早い動きで高い位置でおさえています。動きのスピードに自信を持っているからでしょうが……。
　韓国は週3回体力トレーニングを行なっており、こうしたトレーニングから動きのスピードを養っているようで、日本もこうした点を見習っていかなければいけませんね。

―― それでは、つづいて中国戦の内容についてですが……。

渡辺　中国戦は日本が首藤のシュートで先制しました。すぐに中国に追いつかれましたが、その後連続得点して8分には4対1とリードを奪いました。
　ところが、9分過ぎに立木が2分退場の処分を受けたあたりから日本チームがすっかりリズムを崩してしまい中国の猛反撃を受けたんです。ここで中国が一気に6点を連取して4対7と逆転されたんです。
　しかし、前半残り10分からようやく日本がまたリズムを取りもどし、6対9からじりじりと追い上げ、残り約4分に10対10の同点に追いつきました。
　このあたり中国は18番がラフプレーで追放になったりしてすっかり日本のペースになり、すぐに11点目、12、13点目と加点して再逆転し、中国も終了間際に11点目をあげたものの13対11と日本の2点リードで前半を終了しました。
　後半も日本のペースで始まり中国選手の連続退場などもあって10分には18対12と大きくリードして、このあたりでこの試合は勝てるという感じでした。しかし、中盤に入って日本の得点ペースがダウン、少しづつだが中国が追い上げて来て、残り6分で23対19。しかし、残り時間から考えてそう心配する得点差ではなかったんだけど、このあ

たりから日本のリズムが少しおかしくなってきました。
残り5分を切って25対21のところで玉村が退場。このあたりからすっかりリズムを崩し、残り3分で26対22としながらその後一気に4点を中国に許して追いつかれてしまいました。
内容的には完全に勝っていただけに、この終盤の乱れは大変残念です。

―― 韓国戦もそうですが、どうも日本チームは中盤あたりで少し集中力が切れるというか、攻守のリズムを崩すところがあるようですね。

渡辺 そうですね。チームとしてのゲーム展開がまだまだ若いというのか……。これからの課題でしょうね。

成長著しい首藤。今予選２試合で16得点をあげる

―― 中国チームについての印象はいかがでしょうか。

渡辺 やはりヨーロッパスタイルというか、長身を生かしてのパワー・ハンドボールですね。
選手たちは、かなり体力トレーニングを積んでいるのでしょう、シュートなどのボールスピードが違います。
ただ、現在のメンバーは年齢的にだいぶ高い選手が多いのでこれからジュニアクラスとの切りかえが問題でしょうね。
技術的には未熟なのじゃないかという声もあるようですが、私はそうは思いません。スタイルは違うかもしれませんが、技術的に中国が日本より劣っているといえるようなところはないと思います。
とにかく、ソウル・オリンピックに出場するためには、何としてもこの中国を倒さなければなりませんから、これからもよく研究して、決して遅れをとることのないよう対策を立てて強化していかなければなりませんね。

いかに若い選手たちに自信をつけさせるか

―― ところで、肝心の日本チームの出来というか、現在の状態はいかがなんですか。

渡辺 結果的には、2戦して1分1敗という残念な成績となってきましたが、現在のチームとしては少しづつですがようやくナショナルチームらしさが出てきたと思います。
中国戦では、ぎこちなさは少しあったかもしれませんが、2～3人によるセットからのフォーメーションプレーが出せるようになってきましたし、だいぶチームとしてのまとまりが出てきたように思います。
これは、さっきも話しましたように、津川、佐藤両コーチの大変な努力の結果だと思います。現在のチームにして初めての7月のアメリカ遠征のときの最初の試合のときに比べれば大変な進歩です。
今回の予選では、初参加の朝生がいいプレーを見せてくれたし、酒巻、首藤、藤井、内藤といった若手の選手たちが確実に成長してきています。
また、玉村が大変いいものを持ってきました。

―― さて、今後の問題ですが、ソウル・オリンピック出場に向けての全日本男子チームの課題は……。

渡辺 西山がリードオフマンとして、ポイントゲッターとしてい

かにチームをまとめ、ひっぱっていくことが出来るか、それは大変難しいことかもしれませんが、彼がどれだけそれをこなしてくれるかでチーム力が大変かわってくると思います。

チームは、まだ完全なる個性化という点で欠けています。少しづつナショナルらしさがついてきましたが、まだ一歩足りません。彼らに今後より一層どうして自信をつけさせるかが課題ですね。

韓国は若い選手たちに総合トレーニングの中でスピードトレーニングを行ない、少しづつ自信をつけさせた。一昨年のソウルでのアジア選手権の優勝、そして、その後のロス五輪の予選で惜しくも代表にはなれなかったものの日本に1勝をあげ、着実に自信をつけてきています。そしてロス五輪にはくり上げで出場、その攻撃力が十分通用することを確認しています。

こうした韓国の若い選手たちに自信をつけさせた歩みをこれからの日本も十分に学ばなければいけないと思います。

韓国は、もしこの後のクウェート戦にも勝って世界選手権に出場し、世界の強豪と戦ってくれば、より一層自信をつけ勉強もしてくるだろうから、現時点では日本は韓国に差をつけられたのは否めないでしょうね。

日本としても、少しでもその差が開かないように、来年の2月にイタリア、スペインでの国際大会に出場、また、西ドイツで親善試合を行なうよう計画しています。こうした国際経験から、若手選手たちが一歩一歩成長していってほしいと思います。

また、メンバーについても決して固定的に考えず、常に切磋琢磨してナショナルチームの強化を計りたいと考えています。

それと、これまでもそうでしたが、ジュニアからナショナルへと一貫した強化方策をより一層緊密化し、ソウルに向けて一丸となって強化を計りたいと思っています。

韓国では、現在ナショナルチームは年間二百日以上の合宿を行ない、恵まれた施設を使って強化に励んでいます。日本ではいきなりこうした状態を望むのは難しいと思いますが、各チームの協力を得て、ナショナルチームの強化に励まなければ、これからのアジアで勝ち抜いていくのは大変難しいと思います。

今回の結果は大変残念な内容でしたが、これを再出発への足がかりとしてがんばりたいと考えています。今後ともご支援の程お願い致します。

リードマン西山の成長が今後の全日本の行方に大きく影響する

各地で"ちびっこ"の交流の輪が広がる

第1回関東地区少年少女ハンドボール競技交流会

（8月20、21日／埼玉県坂戸市体育館）

8月20、21日、埼玉県坂戸市体育館において、第1回関東ブロック少年少女ハンドボール競技交流大会が開催されました。

これはハンドボールの普及を願って開かれた大会で、各都県の代表、男子7チーム、女子6チームが参加しました。

チームのメンバーは小学校6年生が中心で、正式のコートより小さめの特設コートで行なわれました。2日間とも小学生とは思えない好プレー、スピードあるプレーがくり広げられました。

熱戦の結果、男子は大宮北小（栃木）、女子は吹上スポーツ少年団（栃木）が優勝しました。また、3位以下のチームで争われた埼玉杯は、男子が守谷ハンドボールクラブ（茨城）、女子は妙義ハンドボールクラブ（群馬）が獲得しました。

各都県の友情の輪を広げたこの大会、来年は神奈川県で開催されます。

〈男子〉

▼1回戦

大宮北小（栃木） 31 （20—0、11—5） 5 国領ク（群馬）

○…前半、大宮北小・大出君のカットインシュートで先行、その後も鮎瀬君の速攻などで着実に加点し、20—0と一方的な展開となった。

後半に入って国領クラブは、ステップシュートを多投、これが成功して小渕君、横江君、橋爪君がたて続けに得点したが、大宮北小も大出君、左腕・大塚君のロングに鮎瀬君の速攻も決まり、結果的に国領クラブは大宮北小の早い動きに押し切られた形となった。

大宮北小GK荒牧君の好守が光った。

守谷ク（茨城） 15 （6—3、9—5） 8 坂戸フェニクス（埼玉）

○…前半、坂戸・間野目のカットイン、二見の小学生とは思えないフェイントからのシュートで坂戸が先行したが、守谷も下村、古賀のロングシュートが決まり、1点を争う好ゲームとなった。

前半10分、守谷の速攻が決まり始め、坂戸もフェイントからのカットインシュートで応戦したが、ボールがバーに当たるなど前半は6—3と守谷がリード。

後半、守谷は大きな身体を生かしたディフェンスとGK大高の好守もあり点差を徐々に離した。

坂戸も二見、間野目の好プレーがあったが、シュート力に勝る守谷の勝利に終わった。

吹上スポーツ少年団（栃木） 23 （12—4、11—3） 7 橘スポーツ少年団（福島）

○…前半、橘スポーツ少年団はロングシュートでの得点を狙ったが、吹上スポーツ少年団の厚いディフェンスに阻まれ苦しんだ。一方吹上スポーツ少年団は、パスカットからの速攻やカットインからのシュートが決まり得点を重ねた。

後半、固さのとれた吹上スポーツ少年団は、ロングシュート、ブロックプレーからのサイドシュートなど多彩な攻撃を展開し、一方的な試合となった。

▼準決勝

大宮北小 22 （10—6、12—3） 9 坂戸ク（埼玉）

○…大宮北小のエース・大出君のカットインプレーで先行、続いて井寺君のシュートで2点を先取すると坂戸も志賀君のロングなどで追いつき、前半10分までは1点を争う好ゲームを展開したが、坂戸は館君がマークされ得点が止まった。一方大宮北小は着実に得点を重ね、前半を10—6で折り返した。

後半に入り、坂戸はエース志賀君が復帰したが、大宮北小・鮎瀬君がカットからの速攻で得点、坂戸も館君のロングで得点を返したが、大宮北小・大出君のロングが冴え、点差は次第に開いていき、22—9で大宮北小が決勝進出を決めた。

スピード感あふれる好ゲームであった。

吹上スポーツ少年団 12 （7—2、5—9） 11 守谷ク

○…前半、守谷クラブは長身の櫛引君、左腕の古賀君らがロングシュートを狙ったが、吹上スポーツ少年団の固いディフェンスを抜くことは出来なかった。一方吹上は、守谷のディフェンスのスキを突き、そつなく得点を重ね7—2とリードした。

後半の動きに余裕の出てきた守谷はシュートが決まるようになり、10分過ぎには1点を争う白熱した試合を展開したが、吹上が辛くも逃げ切った。

吹上・飯島の動きが光った。

▼決勝

大宮北小 13 （7—5、6—7） 12 吹上スポーツ少年団

○…決勝戦は栃木県同士の対戦となる。先取点は大宮北小エース大出君、すかさず吹上も山口君が得点、10分過ぎまでは1点を争う好ゲームを展開。大宮北小は、吹上の攻撃のミスを突き、キャプテン鮎瀬の速攻で連取し、前半を7—5で折り返す。

後半、元気のよい大宮北小は飯島君のフェイントからのシュートで先行したが、勝利を意識して固さが目だつようになった。吹上は激しく追い上げたが及ばず1点に泣いた。

〈女子〉

▼1回戦

瑞穂三小A（東京） 14 （8—4、6—9） 13 湘南台ク（神奈川）

○…開始早々瑞穂・関谷の連続シュートで2点先取。瑞穂が平均身長が高いディフェンスから早い速攻で着実に得点を重ねた。しかし、湘南台GKもよく守り、前半8—4と瑞穂のリードで終了。

後半に入ると、湘南台の本間、小谷、西山のシュートが決まり出し着実に加点した。一方瑞穂はシュートミスが続き、そこを湘南台が速攻につなげ中盤に同点となったが、最後は瑞穂・関谷のシュートで1点差で瑞穂が逃げ切った。

吹上スポーツ少年団（栃木） 34 （18—2、16—1） 3 妙義ク（群馬）

○…前半、吹上は毛塚のロングシュートで先取点をあげ、その後関口、三笠の速攻でリズムをつかんだ。一方妙義は、相手の高いディフェンスに阻まれシュートチャンスがつかめないまま神宮、中山

のロングシュートによる2点にとどまった。

後半、波に乗った吹上は、加藤のロングシュート、伏木の速攻により着々と加点、妙義に神宮のロングシュート1本を許しただけで一方的試合展開で終了した。

▼準決勝

大宮北小（栃木） 26（15—4, 11—3） 7 瑞穂三小A

○…大宮北小は長身の牛久、高田、鶴見のロングシューターをそろえ、その3人が大竹のパスに合わせて打ちこむ豪快な攻撃、たて続けに得点。対する瑞穂も関谷のロングで返すが、大宮北小の高いディフェンスとGKの好守に阻まれ、4点におさえられた。逆に大宮北小はロングが面白いように決まり、さらに速攻、カットインをからめ15—4と前半をリード。

後半も大宮北小の攻撃はとどまることを知らず、瑞穂ディフェンスを打ち抜くシュート、さらにパスカットからの速攻と連続6得点。瑞穂もステップシュート、ロングシュートと必死の反撃を見せるがあとが続かず、攻撃力に勝った大宮北小の圧勝。

吹上スポーツ少年団 25（11—0, 14—4） 4 瑞穂三小B（東京）

○…開始直後、瑞穂はロングシュートからきっかけをつかもうと積極的に攻め入るが、吹上の高いディフェンスに阻まれ得点出来ない。

これに対して吹上は、3分毛塚の小学生とは思えないロングシュートをきっかけにディフェンスを生かし、パス、シュートカットからの速攻という展開で着実に加点し、前半を11—0として試合をほぼ決めた。

後半、瑞穂も小林のロングシュートが決まり出し3連続得点するが、点差をつめるにはいたらず、25—4で吹上の勝利に終わった。

▼決勝

吹上スポーツ少年団 13（8—4, 5—4） 8 大宮北小

○…立ち上がり互角の展開を見せたが、シュートの確実さで吹上が着々とリードを広げた。しかし大宮北小もフリースローからのロングなどで反撃、一時は1点差まで追い上げた。

その後、大宮北小のラフプレーとも思える反則から7本連続のペナルティーなどで吹上が加点、8—4で前半を終了。

後半、大宮北小が牛久の連続得点などで2点差まで追い上げたが、吹上も中盤過ぎ、玉田のカットインを口火に加藤のロングなどでたて続けに得点、結局13—8でタイムアップとなった。

「埼玉杯トーナメント」

〈男子〉

▼1回戦

坂戸フェニックス 23（11—3, 12—7） 10 橋ク

▼準決勝

守谷ク キケン 国領ク

坂戸ク 16（7—7, 9—6） 13 坂戸フェニックス

▼決勝

守谷ク 12（7—3, 5—4） 7 坂戸ク

〈女子〉

▼1回戦

妙義ク 19（12—6, 7—5） 11 湘南台ク

瑞穂三小A 25（10—3, 15—0） 3 瑞穂三小B

▼決勝

妙義ク 14（6—3, 8—5） 8 瑞穂三小A

第2回東海地区少年少女ハンドボール競技交流会
（9月16日／岐阜県笠松町体育館）

〈男子〉

正色スポーツ少年団 1—1 大垣スポーツ少年団

正色スポーツ少年団 3—2 愛知県ハンドボール教室

笠松スポーツ少年団 4—2 大垣スポーツ少年団

愛知県ハンドボール教室 8—4 笠松スポーツ少年団

正色スポーツ少年団 6—0 笠松スポーツ少年団

愛知県ハンドボール教室 6—1 大垣スポーツ少年団

［順位］

①正色スポーツ少年団
②愛知県ハンドボール教室
③笠松スポーツ少年団
④大垣スポーツ少年団

〈女子〉

笠松スポーツ少年団 3—2 正色・愛知混成チーム

笠松スポーツ少年団 3—2 大垣スポーツ少年団

正色・愛知混成チーム 4—3 大垣スポーツ少年団

［順位］

①笠松スポーツ少年団
②正色・愛知混成チーム
③大垣スポーツ少年団

※　※　※

小学生のスポーツ少年団の活動の中で、現在他との交流試合がほとんど不可能な状況の中で、今回のように他府県のチームと交流試合ができたことは、非常に意義深いことだと思います。ともすればチーム内の紅白試合程度で、技術の向上の面からも井の中の蛙的であったのが、他チームとの交流を深める中で、技術的にも向上を図れるのではないかと考えます。ただ、会場が遠隔地になると、費用面で無理がかかるので、今後考慮すべき点だと考えます。県内、および近隣他府県のチームが増え、交流が盛んになることを望みます。

愛知県ハンドボール教室
部長　吉田充孝

第1回関東地区少年少女交流会スナップ集（男子）

表彰式。男子優勝の大宮北小キャプテン鮎瀬君に賞状が渡された

男子優勝の大宮北小（栃木）のメンバー

埼玉杯決勝戦。坂戸の木戸君のシュート

決勝戦で大宮北小がサイドシュートを放つ

決勝戦のハーフタイムでミーティングをする吹上スポーツ少年団ベンチ

第1回関東地区少年少女交流会スナップ集（女子）

表彰状を受ける女子優勝の吹上スポーツ少年団キャプテンの加藤さん

女子優勝の吹上スポーツ少年団（栃木）のメンバー

決勝戦、大宮北小がジャンプシュートを放つ

決勝戦、吹上・山中さんの倒れ込みシュート

埼玉杯決勝戦、妙義・中山さんのジャンプシュート

ナショナルチーム監督の選考方式に具体的基準を持ち込む考え方

新井節男
市原則之

はじめに

日本のハンドボール界は、今まさに重大な岐路に立っている。

一九七〇年代までは、極東でただ一国ハンドボールを楽しみ〝井の中の蛙〟といわれながらもアジアの代表として君臨しえていた。しかし、韓国、中国をはじめとするアジア地区の国々にハンドボールが普及された今日では、その歴史的優位性を除いて何らの誇るべきものを持ち合わせていないというのはいいすぎであろうか。

体力・気力については富める国の弱さを暴露し、技術、戦術、戦略において、先進ヨーロッパからの情報収集に欠ける点が多い。さらに、強化・普及の面では、前近代的で不明瞭な組織体系にある。

今回、私たちは日本ハンドボール協会の男子強化委員会委員への就任を請われた。その手始めの仕事が、ナショナルチームの監督問題であった。ロサンゼルス・オリンピック大会のあとソウルを目指して力強く順風満帆の船出をした新ナショナルチームに、一選手の不祥事が波乱を巻き起こし、船長たる監督に下船を余儀なくさせたのである。このときにあたって私たちは、その後任監督推薦の大役をうけ、白羽の矢の的さがしをすることになった。ことは容易ではない。従来どのような手順手続きを踏んできたのか判然としない。

それは選手選考についても同様で、具体的な基準がない。いろいろな所で、それも正式な場ではなくて特に宴席などでその不満の声を聞くことが多い。

そこで今回の強化委員会の席では、選考方式の具体的基準案を基にして、男子ナショナルチーム監督推薦作業を行なった。その意見内容や結果については公表を憚るが、その選考基準案を公表し、多数の方々の意見を聞きながら今後の種々の役員の選手選考案づくりの参考として利用するために、また、利用していただくために本稿を記すことにした。

なお、後述のように、本方式についての意見聴取アンケート調査を8月中旬にかけて行なった。調査への協力者各位の多くの方々が、具体的意見を文章表現で明示して下さり、その中に日本ハンドボール界の発展を真剣に考え、燃えるような情熱を傾注されていることを痛感したことを記してお礼にかえさせていただく。

男子ナショナルチーム監督推薦考課評定基準案

（原案作成・市原則之）

◎17項目と各項目のウエイト

17項目のそれぞれに重さをつけ、全体を100とした（表1）

◎項目別配点（表2）

各項目ごとのウエイトの中で、候補者の力量に応じたランクをつけ、これを点数化するようにした

表1　男子ナショナル監督推薦考課評定（基準案）

［項目］	ウェイト（％）
1．年齢	6
2．出身校	5
3．選手としての戦歴	5
4．選手としてのタイプ	5
5．指導歴	6
6．指導統率力	8
7．勤勉度	5
8．折衝能力	5
9．企画・独創性	8
10．ヤル気・闘志	5
11．人間性	5
12．性格	5
13．社会規範遵守	8
14．健康状態	6
15．国際性	5
16．マスコミ受け	5
17．所属先の理解度	8
合計	100％

有識者への意見聴取

本稿の作成に先立って、日本ハンドボール界の有識者（日本リーグ参加チーム中心）に本方式への意見聴取を行なった。

回答は以下の通りであった。

◎項目1～17について

・①年齢、②出身校、③選手時戦歴、④選手時タイプについては、こだわる必要はない。

・⑥指導統率力、⑧ヤル気、⑨勤勉性にもっと多くの配点をすべきである。

・⑪人間性、⑫性格はひとつにまとめられる。そしてより多くの配点が必要である。

・⑭健康状態については、特に大切である。心身の健康度の意味で十分に考えたい。

・⑮外国のハンドボールへの理解度が大切である。

◎選考基準全般に関わる意見

・若者気質が十分理解出来る人が望ましい。

・日本ナショナルの技術・戦略に不動のビジョンを持つ人がよい。

・選手発掘の眼力を持つ人が望ましい。

◎本選考基準案を巡っての意見

・強化委員会自体の人達に配慮が必要である。

・本案が女子ナショナル監督にも通用出来るよう配慮願いたい。

・本案を日本協会のトップの人材登用に用いたい。

◎付帯意見……本案とは直結しないが、この際意見具申したい事

・将来的強化策として、子供たち（小・中学生）の全国大会の一層の普及を望む。

・ナショナルチームの基本方針の明確化

・中国、韓国に負けない方法は？

・そのために必要な人材は？

・ハンドボールの魅力創造策は頂点強化、財力、PRである。

・ハンド指導者の指導法（なぐる、けるが混入する）の猛反省が必要である。

まとめ

日本のハンドボール界には成文化された約束事が少なすぎる。一つの文書があれば、これを鵜呑みしたり、無視したりすることが多い。それに対しての反論等を持ってよりよいものをつくりあげようとする意欲が乏しい傾向にある。

私たちは本稿をもとにして、ここ毎月発行の協会機関誌「ハンドボール」の誌上で大いに意見を述べ合うような姿勢が芽生え、育つことを祈るものである。

今大切なことは、現実社会（学校社会ではない）の実体に立脚した視野の広い地についた具体案である。

このことが、誌上討論出来る態勢づくりが今求められるべきであり、日本ハンドボール界が発展するための礎石になるものと信じている。

表2 男子ナショナル監督　選考考課評定基準(案)

項目	ランク	内容	配点
年齢	A	36〜40才	6
	B	41〜45才	4
	C	30〜35才	3
	D	46才〜	2
出身校	A	名門校　常に全国レベル上位にあり、在校時全国大会優勝経験あり	5
	B	名門校　常に全国レベル上位にあり、在校時優勝争いの経験あり	4
	C	名門校とはいえないが在校時に本人の活躍で全国大会上位に入る	3
	D	その他	2
選手時戦歴	A	元ナショナル選手、オリンピック・世界選手権など国際舞台で活躍	5
	B	元ナショナル選手、またはナショナルクラスで国際試合の経験あり	4
	C	全国大会に出場し、優勝または優勝争いの経験あり	3
	D	その他	2
選手時タイプ	A	オールラウンドプレーヤー、GK	5
	B	チャンスメーカー	4
	C	ポイントゲッター、ディフェンサー、その他	3
	D	選手経験無し	2
指導歴	A	国際試合の監督・コーチ経験あり	6
	B	国内各種別のトップチームの監督・コーチとして優勝経験あり	4
	C	国内各種別のトップチームの監督・コーチとして采配の経験あり	3
	D	その他	2
指導統率力	A	選手の能力・適性を充分のばし、つねに信頼を受けている	8
	B	選手の能力をある程度理解し、信頼関係が保てる	6
	C	選手の指導・掌握に努力するが、成果は不十分	4
	D	選手の能力・適性は無視して、自分の考えを押し付ける	2
企画独創力	A	常に独創的で有効な具体的方策を立案し、実践に役立てる	8
	B	豊かな経験を生かして具体的方策をまとめ、実践に役立てる	6
	C	時々よい方法・考えを出す事がある	4
	D	必要な方策を考えだすことは得意でない	2
ヤル気闘志	A	自分の役割を120%発揮するため、常に責任感あふれる行動をとる	5
	B	積極的で、気迫をもってことにあたる	4
	C	意欲の点にムラがあり、責任感に多少問題あり	3
	D	物事を行なうに消極的である	2

項目	ランク	内容	配点
勤勉度	A	非常に真面目で、常にコツコツと自主的に活動する	5
	B	与えられた事柄については、責任をもってこれを遂行する	4
	C	気分的にムラがあり、真面目な所と不真面目な所がある	3
	D	不真面目である	2
折衝能力	A	相手の意図を的確に理解し、自分の意思も充分に主張伝達する	5
	B	他人との意思の疎通をはかるのが上手である	4
	C	とっつきにくいタイプであるが、相手により巧く伝達する	3
	D	折衝はあまり得意でない、ときにトラブルを起こす	2
人間性	A	包容力があり、温かみのある誠実な人柄が誰からも愛される	5
	B	どことなく人間的魅力があり、人から慕われる	4
	C	強烈な個性をもち、周囲の人々は敵と味方が半々である	3
	D	人間的に欠陥がある、といわれる	2
性格	A	快活明朗、いつも明るい雰囲気を周りの人にあたえる	5
	B	陽気で気分転換が早く、クヨクヨしない	4
	C	気分にムラがあり、感情の起伏がはげしい	3
	D	陰湿な性格のため、人が寄りつきにくい	2
規範遵守	A	社会秩序を率先して遵守し、選手にも適切な指導を行なう	8
	B	定められた規則はよく守り、社会常識もよく備わっている	6
	C	社会秩序を守る点では人並みである	4
	D	自己中心的で、ルール無視がおおい	2
健康状態	A	すこぶる健康、タフである。	6
	B	健康状態に注意をし、人並みの状態にある	4
	C	あまり無理の出来ない健康状態にある	3
	D	病弱である	2
国際性	A	国際的に著名であり、友人も多くインターナショナルに活躍できる	5
	B	国際的活躍の経験は少ないが、積極的に活動する	4
	C	多少引っ込み思案なところがあり、国際感覚にやや乏しい	3
	D	国際感覚がなくて、むしろ外人嫌い	2
マスコミ受け	A	マスコミに名が通っていて、非常に受けが良い	5
	B	適当にうまくマスコミを利用し、ある程度名前も通っている	4
	C	マスコミとの対応に積極性がない、相手にされない	3
	D	マスコミ嫌いである	2
所属先理解度	A	指名を受ければ名誉に感じて、派遣する、経済的な保証も行なう	8
	B	交渉次第で、上記をみたす	6
	C	指名を受ければ派遣はするが、経済的保証はない	4
	D	指名を受けても、派遣はむつかしい	2

TUSEM・エッセンチームから学んだこと

北川　勇喜

1　スピードがすべての点で最も重要なポイントである

西ドイツの強豪ＴＵＳＥＭ・エッセンに対し、後半の20分は、18対15の3点差、25分では、19対17の2点差と、全日本が健斗して、勝利を握るかに見えた土壇場で、発揮した彼等のプレーは、さすがに本場仕込みの一級品だった。

中でも、印象に残ったプレーの第1は、この試合で5得点をし、しかも、終盤の勝敗の岐路に、2得点を上げたベテランのハウゼン（元ナショナルプレーヤー・左利き・32歳）の1点は、セットオフェンスで、右45度のフローターのポジションから、フェイントでチェックしたディフェンスを抜き、フォローした2人目のディフェンスを回り込みのステップでかわして、クィックで打ったシュートだった。また、19対19の同点にした貴重な得点は、速攻をかけた全日本のパスを、好判断よくインターセプトした後、強引とも見える逆速攻からのものだった。

このように、ハンドボールにおいては、瞬間における選手の判断が最優先であり、この判断が相手より遅れれば、いいポジションをとることもできないし、パスも抑えられるし、シュートもブロックされる。

この試合の大事な場面で見せたベテラン・ハウゼン選手のプレーは、ハンドボールにおいて欠かすことができない、判断の速さ、相手を抜く速さ、逆をつく速さ、位置取りの速さ、シュートのタイミングの速さと、ボールスピードが総合された見事な個人技であった。

第2は、対湧永戦、対全日本戦で計13点を上げたフラッツ選手（ナショナルプレーヤー、ロサンゼルス・オリンピックで活躍、右利き、学生、22歳）のスピード溢れる動きの中での技術と戦術プレーは、群を抜くものだった。その数々のプレーの中で、彼が前半見せた。シューターの死角地帯とも思われるゴールエリアの空間から、アンダースピンシュートで得点した1点は、このシュートを見ただけでも、会場に足を運んだ甲斐があったとさえ思われる、正に芸術的な一投であった。このシュートは、左サイドの僅かなオープンスペースをカットインでつき、オーバーハンドのシュートと見せかけて素早くアンダーシュートに切り替える。しかも、ゴールキーパーの足の届かない所にバウンズさせ、逆くの字のボール回転でゴールを割るシュート法である。

この時、全日本のゴールを守っていたのは、名手の井藤選手であったが、彼をして、唖然とさせたほど意外性のあるシュートだったし、見ていた我々も、ハッとする一瞬の出来事で、暫くして、この見事なシュートに絶賛の拍手を送ったほどであった。

第3は、2試合で6点を上げた小柄なポストプレーヤー、ラウィン選手が、密集地帯をすり抜ける変化に富んだスピード力、ボール扱いの速さ、連けいプレー時のポジショニングの速さ等、素早い判断、その判断を実行に移すプレーの速さ、敏しょう性、ダッシュ力等の走る速さが、ハンドボールにおいては欠かすことができない基本であることを身をもって教えてくれたし、更に、この小柄なラウィン、中柄なフラッツの両選手は、ハンドボールにおいて、身長は最重要な要素ではなく、前述した3つのスピードがあれば、大きな仕事をすることができることを教えてくれた。このことは、日本のハンドボールにとってとても貴重なことである。

2　戦術（対敵センス・駆けひき）は、技術と同じく大切である

勝てた試合を落とした後、津川全日本コーチは、終盤の勝負どころで、6対4（エッセンチームが2人反則で退場）を攻め切れなかった全日本チームの視野の狭さを嘆き、口惜しがったが、我々の目にも、エッセンチームの戦術力に対し、日本チームの個々の戦術力、グループ及びチームの戦術力の乏しさが目についた。このことは、ヨーロッパのハンドボールが、技術や体力と同様に、戦術を大切に考えて、子どもの頃から戦術を理解するセンスを高めたり、また、養ったりする方法を重視しているのに対し、日本では、中学、高校のハンドボールの段階で、戦術が軽視されているからだと考える。

このことは、関係者がハンドボールを良く理解してないからであり、ハンドボールは、①得点を争う②ボールを媒介とする③チーム対チームの争いで、必ず相手がいる。この3点が、ハンドボール

の本質的な特性であることをよく理解すれば、ハンドボールがうまくなるためには、ランニングやパス、シュート、ドリブル等の体力や、技術面だけでなく、判断の速さや正確さ、位置取りのうまさ、相手敵の逆をつく速さやうまさ、相手のタイミングを外すうまさ等で、相手をうまくかわして、1対1を1対0にしたり、2対2を2対1にしたり、3対3を3対2……6対6を6対5にして、同数の対峙の関係を打破する戦術が、技術や体力と同じく大切なことがわかるだろう。

3 フォア・ザ・チームの精神力が大切である

エッセンチームは、選手14名、役員5名、ドクター2名、クラブ後援者、計25名の編成で来日した。

目的は、日本企業のエッセン市への誘致、59年度西ドイツ全国リーグ（ブンデス・リガ）の好成績に対するクラブの報奨と、60年度優勝の足固めであった。

機会があって、彼等と同行した京都からの新幹線、富士山、箱根までのバス、東京観光のあちこちでの印象は、上品で礼儀正しい役員及び後援者たちと、明るく、楽しい選手たちとのハーモニーだった。

このチームワークは、立石京都協会長主催の観迎パーティーでも発揮された。この会の終りのエッセンチーム団全員による素晴しいコーラスは、出席した日本の関係者全員が感動したほど見事な、ハーモーニーだったし、チームワークだった。このように、選手たちが自分たちの背後に、ハンドボールを愛し、選手を愛し、クラブを愛し、しかも、エッセンチームを、西ドイツのチャンピオンチームに押し上げようとする多くのファンの力強い心と行為を強く感じるところから、「フォア・ザ・チーム」という精神力が生れるのに違いない。

エッセンチームとの試合後、津川全日本コーチが、選手たちは、与えられた個々の役割りを充分果たしていないし、ピンチに臨んでは、人に頼って逃げのプレーばかりと、ナショナル選手の精神的なもろさを指摘したが、この言葉を借りるまでもなく、ナショナルプレーヤーが、日の丸のユニフォームを着て戦うことの精神的な意味をどう考えているのか、更に、ナショナルチームの成績が国のハンドボールの将来にとってどれだけ大きな影響を与えるのか、この大切な自分たちの役割をよく自覚していないのではないかとさえ思われるエッセンとの戦いぶりだった。

しかし、今一番重要なことは、この責めを、ナショナルチーム及び、プレーヤーだけに負わせるのではなく、中学校、高校、大学、クラブ、実業団にいたるまで、また、強化委員会から強化部及び理事会にいたるまで、小さな組織とか、それまでのポジションといったことを抜きにして、日本ハンドボール界全体として、ピンチに立っている男子ナショナル問題に対し、ざっくばらんに論議をし、その中で一貫した方針をうち出し、それによってナショナルチームの強化にすべての人たちが協力する背景をつくり出すことが大切である。日本ハンドボール界全体のチームワークなしでは、ソウルへの道は開かれないし、ハンドボールの進歩も発展も考えられない。

このように、日本のハンドボール界にとって大切な、しかも、今すぐに取り組まなければならない課題に対し、良いヒントを与えて去った・TUSEM・エッセンというチームは、来日した今までのチームにはない魅力を持った素敵なチームだった。

日本・エッセン親善試合結果

（7月27日／大阪東淀川体育館）

湧永製薬 21（9−12、21−9）21 エッセン

	得	〔湧永〕		〔エッセン〕	得
GK	0	大城		ヘッカー	0
	0	井藤		ブッフロー	0
FP	6	池ノ上		ギスラーソン	8
	5	生駒		エバーライン	0
	3	玉村		ハッペ	0
	0	藤本		クレーブス	0
	0	志賀		ロンメル	0
	0	内田		ハウゼン	0
	1	荷川取		ラウイン	4
	6	山本		スプリンゲル	1
	0	楢原		フラッツ	6
				コルデス	2
PT	21	(6)		(0)	21

（審・川島、森）

（7月28日／京都市体育館）

全日本 19（10−9、9−10）19 エッセン

	得	〔全日本〕		〔エッセン〕	得
GK	0	井藤		ヘッカー	0
	0	大畑		ブッフロー	0
	0	矢内			
FP	7	西山		ギスラーソン	2
	1	藤井		エバーライン	0
	2	志賀		ハッペ	1
	0	高木		クレーブス	1
	1	立木		ハウゼン	5
	6	玉村		ラウイン	2
	0	内藤		スプリンゲル	1
	1	田口		リッケンブロック	0
	0	荷川取		フラッツ	7
	1	首藤		コルデス	0
	0	山本			
	0	酒巻			
PT	19	(6)		(0)	19

（審・川島、森）

国際レフリーシンポジウム報告書 II

光島　磯雄

「シンポジウム開会演説」

―IHF規則審判委員長　エリック・エリアス

IHFは一九八一年にどうしても必要と考え、新しいルールブックを制定したが、その後次々とあらわれたことは真に遺憾ながら、ハンドボールが不安定で信頼性の乏しいものとなり、粗暴なものとなってしまった。特に強調すべきことは、規則審判委員会のみならず、技術委員会も含めての積極的な基礎準備を経た上で、この一九八一年版が実用に供されて以来、明らかに短期間のうちに試合内容改善に役に立てなくなってしまったことを卒直にみとめざるをえない。我々の狙いとする「試合はこびを円滑にし」しかも「フェアーなものにする」ことはもはや実現近しと思ったのであるが……。

一九八二年西ドイツでの男子世界選手権大会では、多くの真に良好でフェアーで熱気あふれるばかりの好試合がみられ、その中でもファイナルラウンドは正真正銘のすばらしい見本となる政治的効果もみとめられるものであった。

現在ここに参集している諸氏はルール変更の中身について何でも知り得る立場にある。もっとも重要なことは、特にプレーの続行をみとめないコート上の失格についての具体的な表現とその基準は、今後レフェリーの判定を容易にするとともに、個人に対する罰則の適用の確立について以前よりも厳しく断固としたものとなっていることである。しかし、残念ながらフェアーでいずれの場合も粗暴でない試合実施に関する共同の努力は、今日の多くのハンドボールプレーヤーには欠けているとみとめざるをえない。このフェアプレーというものを望ましい水準に保つにはほど遠いといえる。依然として再三にわたってアンフェアープレーがまかりとおっており、その限界をはるかにこえている事態に目をそむけるわけにはいかないのである。

これらの事柄の関連で私としては、世界選手権大会やオリンピックやヨーロッパカップ、または何らかの国際対抗試合といったビックイベントのファイナルラウンドにまでこのような度をこえた激しさや粗暴さ（原語訳、残忍行為）を現実に横行させてはならないと確言するものである。

この点でも、何はさておいてもIHFの代表者である規則審判委員会と技術委員会の委員が、それぞれの大会に立ち会うことは大きな意味があると考える。このことを通してレフェリーは通俗的でない、いわばあまり頻繁にはおこらない試合場面の判定基準を得る上での直接支援態勢が整えられることとなる。このことは私がたまたま思いついた事でなく、先頃ノルウェーで行なわれた男子B世界選手権大会でも、私が徹頭徹尾フェアーでクリーンなハンドボールの実行を要望したことである。

公式観察員が常時立ち会うことによって、平均水準以上のハンドボールが見られるようになるのであれば、従来から問題であった歓迎されざる例外扱い的な判定は未然に防がれることになるであろう。

現在のハンドボールは、今や国内の試合、その他の通常的試合にも真に遺憾ながらそのネガティブな傾向をあらわしはじめている。いくつかの国ではすでに我々の推奨する「一段と激しくなる試合様相に対してはコートから失格」とする処置について、これを軽視する傾向が強められつつあるかにみえる。このことは同時にとりもなおさず、その国のルール問題上訴機関がくだしている試合判定についての処置（修正、指導）に疑念があり、それによりその国のレフェリーも信頼性の乏しいものになっていると思わざるをえない。私はここでIHF規則審判委員会の解釈をはっきり述べたいと思う。いかなる試合でもプレーヤーはレフェリー同様あやまちをおかすものであり、我々はこれらのプレーヤーによる――もちろんレフェリーによる――あやまちも試合の構成要素の一つとしてみなければならない。そしてレフェリーの事実判定は他からみてあやまっていると見えても異論の余地のない独立したものとみとめなければならない。規則審判委員会は当然のことながら18―13を有名無実にすることは考えもしないし、このルールの文は他の判定も明らかに事実判定の範囲に入ることを強調する。

我々は再度にわたってルールブックを管理主導することとなった。今回は大幅な改正を必要としないが、とりあえず、ルールブックそのものでなく改善を要する履行義務について話をすすめる。

すべての加盟国は、一九八一年版についての意見を報告するよう求められ、多くの国はこれにこたえてくれた。IHFの規則審判委員会と技術委員会の新ルールに関する準備は、一九八四年7月サンディエゴでのIHF総会で一九八五年版としての発行を公表、承認のはこびとなった。遺憾ながら三ヵ国語（英、独、仏）公用語によるルールブックの作成は、時間の都合で完全なものを送付するには若干の遅れが見込まれる状態である。私自身これを残念に思うとともにおわびするが、一九八五年8月施行となるよう出席者諸氏がそれぞれの自国語に翻訳するよう希望する。これを出発時として一九八五年版は実行を有するものとなり、すべての国にとって相互に試合する上での同時スタートとなる利点となるはずである。

一九八五年版と一九八一年版の対比上のメリットは今回もルール解説文を同時に公表出来ることである。前回はオーストリア・リンダブルンでのシンポジウムのため

に急拠用意するために作成された。もともとルールは簡明であるべきだし、解説文が必要でなくなることは望ましいが、我々としてはルールブックだけでは表現出来ないことについての解説注解をつけることは統一見解を拡充する上で必要有益と考える。

ところで、今回のルールブックのどの部分が最重要変更なのか？我々がとりわけ第一に企図することは、いわゆる罰則の段階的適用を表現することであり、そしてそれをどのように適用するかについての確認である。ヴェルナー・フィック氏のテーマの中に含まれていない事柄の処置については、次の時間に論ずることとするが、私はその狙いとするところをより一層強調するつもりである。

腕（両腕）、手（両手）を用いての防御行為が相手に対し圧倒的であるか、または相手の身体そのものにはたらき、そしてボールを対象としていない状態のときこそ段階的適用に結び付けなければならない。この点で我々規則審判委員会と技術委員会にすべてのハンドボール試合関係者、プレイヤー、トレーナー、レフェリーに対して新しい項目である。８—13をただ単なるセオリーに止めることなく、それを実際的行動として受入れるように方向を示すものである。

ルール８—13は次のように表現している。

「相手に対する動作中のルール違反（８—４～11）でその行為が圧倒的であり、ボールを対象としておらずもっぱら相手の身体に対してのみであるときは段階的に罰せられるべきである」

17—１では現在次のように確認する。前述のような行為に対しては、初回は警告で罰しなければならない。この規定のコンビネーションについて１チームは最高３回の警告を科せられるが、これは試合のやり方をクリーンにするための罰則の段階的適用のより強度な運用を意味するものである。

我々はこのことがヘフェリーの行動の自由を拘束することになるのを十分承知しているが、反面、同時に彼らに統一見解を持たせることになると考える。ここでレフェリーは自分自身に問いかけてほしい。防御プレーが果たしてボールに対して努力を傾けているのか、あるいはそうでなく相手の身体に対してなのか？　について答を出さなければならない。このことは、レフェリーにとってそんなにむずかしいことではないはずである。その他の変更箇所については、それほど詳細に言及する必要はないと思うゆえ触れないが、ヴェルナー・フィック氏が説明にあたる。

一九八五年版ルールブックにより、我々は今度こそ正真正銘のフエアーなハンドボールの基礎確立に成功をおさめたいと願っている。

レフェリーが指示事項を順守し服従し、プレイヤーも同様に努力し、少なくともトレーナーと共にルールを尊重し、レフェリーの判定を受入れるようになれば、私としては今後行なわれる各種の試合に希望を見出すことが可能となる。

ここにいる規則審判委員会関係者全員と他のＩＨＦの代表者は、ハンドボールの大国小国を問わずそれぞれの審判部長とともにその責任を自覚し共有するものである。

この責任は、最終的にはレフェリーのルール知識、理論に立脚する。そしてまた我々がレフェリーの判定の道徳的見地からの理念に立っていることは明らかであり、高のぞみをしない程度の取捨選択の対象となる。

今シーズンのおわり方であったが、トップ・レフェリーと言われていたレフェリーですら本来のレフェリー活動からはるかに逸脱退歩するような脱線吹笛ぶりを示し次の肝心の試合に割当てることが不可能になってしまったことがあり、もはや忍耐の限界をこえるような出来事があったことも付記する。我々規則審判委員会は皆さんが各国の審判部長としての皆さん自身のためにもその責任を担うことの出来る自国のレフェリーをＩＨＦリストに登録手続をすることに信頼の念をもっている。そしてそのレフェリーは必ずしも50歳の定年まで名簿にとどまることはありえないことも強調する。毎年皆さん方の国内で彼らの実力を検定評価することは、義務なのである。それらのレフェリーが、国内的には、どれだけ有能であってもそれだけではＩＨＦの名簿にはポジションを占めることはありえないと知るべきである。偶然ならざる、そして拙劣な逸脱退歩的現象を示すレフェリー、またはそのペアは、必然的に拒否される。このことは、その国の審判部長の見識の問題にもつながることである。もちろんのこと、ＩＨＦ規則審判委員会の召集に応じて大会吹笛に参加したレフェリーとてもそれが、完全にフィットしない有様であれば同様に陶汰の対象となる。このような拙劣にして逸脱退歩的印象を与えることとなればその信用回復には多大の時間が必要となるであろう。

以上述べて来たが、私は現在出席の皆さんに再度この重大なる責任について強調する。我々はベストをつくしたとはっきり申し上げる。これからも同様に要求されるであろう、この前提条件が成立した今日、我々のハンドボールが、スポーツ世界に最良のものと思われるようにしなければならない。実施にたずさわる人々は、観客と同様にＴＶを通じこの人々にもハンドボール世界としての喜びと安心を与えるようにするためのよりよき将来の指標とならなければならない。

各地の記録から・・・

国体山口県予選

（成年男子）（7月20～23日／徳山市体育館他）

▼1回戦　徳山曹達 28－22 出光石油

▼2回戦　山口県教員団 36－19 徳山曹達　豆子郎ク 28－26 徳山ク　岩国ク 35－24 下松ク　下関ク 30－13 興亜石油

▼準決勝　山口県教員団 44－24 豆子郎ク　下関ク 23－21 岩国ク

▼決勝　山口県教員団 28（17－15、11－7）22 下関ク

（成年女子）

▼決勝　徳山ク 23（11－9、12－5）14 岩国ク

（少年男子）

▼1回戦　岩国 20－17 下松工　高水 28－12 山口　下関中央工 39－10 野田学園　小野田工 39－15 徳山　徳山工 20－16 宇部工　南陽工 31－11 岩国商　下松 23－19 岩陽

▼2回戦　県選抜 30－16 岩国　高水 28－25 下関中央工　小野田工 27－15 徳山工　南陽工 26－18 下松

▼準決勝　県選抜 38－23 高水　小野田工 33－15 南陽工

▼決勝　県選抜 36（17－13、19－9）22 小野田工

（少年女子）

▼1回戦　徳山選抜 44－4 山口中央　高水 40－7 徳山工　徳山 キケン 光丘　岩国商 35－6 防府商　坂上 キケン 新南陽　響 14－2 岩陽　徳山商 26－5 岩国

▼2回戦　徳山選抜 25－15 熊毛北　徳山 18－11 高水　岩国商 40－4 坂上　徳山商 34－12 響

▼準決勝　徳山選抜 28－3 徳山　徳山商 23－6 岩国商

▼決勝　徳山商 20（10－9、10－10）19 徳山選抜

第38回富山県民体育大会

◎一部（7月21、23日／氷見高）

（成年男子）

▼決勝　全富山 25（12－10、13－9）19 富山教員

（成年女子）

▼決勝　全富山 18（10－4、8－5）9 想球会

（少年男子）

▼1回戦　高岡向陵高 29－25 高岡高　氷見高 26－17 呉羽高

▼決勝　高岡向陵高 23（12－8、11－7）15 氷見高

（少年女子）

▼1回戦　有磯高 25－14 女子短大附　高岡商 37－2 高岡高

▼決勝　高岡商 22（13－5、9－7）12 有磯高

◎二部（8月10、11日／新庄中）

（一般男子）

▼1回戦　想球会 28－16 向陵ク　射水ク 23－18 般若ク　氷見ク 41－7 小矢部ク

▼準決勝　想球会 26－18 八尾ク　氷見ク 24－15 射水ク

▼決勝　氷見ク 23（11－7、12－6）13 想球会

（一般女子）

▼1回戦　砺波ク 11－7 高女OG

▼決勝　想球会 21（10－3、11－3）6 砺波ク

（中学男子）

▼1回戦　和合中 22－12 小杉南中　南星中 26－6 福岡中　般若中 20－12 上滝中　氷見南部中 22－11 八尾中

▼2回戦　南星中 26－20 和合中　氷見南部中 25－12 般若中

▼決勝　氷見南部中 16（7－3、9－8）11 南星中

（中学女子）

▼1回戦　小杉中 23－6 氷見南部中　国吉中 21－7 杉原中

▼準決勝　小杉中 24－8 富山西部中　出町中 12－10 国吉中

▼決勝　小杉中 11（6－1、5－1）2 出町中

◎三部（ママさん）

▼決勝　コスモスA 10－8 コスモスB

第40回大阪府秋季高校総体

◎北ブロック予選（8月20～22／豊中高、北淀高）

（男子）

▼1回戦　千里 12－11 東豊中　北野 21－8 北淀　東淀川 22－1 柴島　吹田東 14－9 追手門　市岡 15－8 刀根山　池田 27－7 扇町　渋谷 18－5 箕面学園

▼2回戦　大商 25－2 千里　北野 21－14 箕面　池田北 10－7 東淀川　北陽 30－0 吹田東　桜宮 20－8 市岡　豊中 16－14 桜塚　池田 21－10 豊島　都島 20－8 渋谷

▼3回戦　大商 23－7 北野　北陽 31－10 池田北　桜宮 17－4 豊中

都島工 22－11 池田

▼4回戦

北陽 19－11 大商
桜宮 12－12 都島工（3PTC2）

▼1位決定戦

北陽 20－12 桜宮

〈女子〉

▼1回戦

池田 14－13 刀根山
梅花 12－6 北野
箕面 キケン 北淀

▼2回戦

池田 17－1 市岡
薫英 26－2 扇町
桜塚 12－3 千里
金蘭会 11－10 梅花
桜宮 キケン 渋谷
東淀川 8－7 成蹊
豊島 12－10 豊中
福島女 16－2 箕面

▼3回戦

薫英 20－11 池田
桜塚 13－10 金蘭会
桜宮 30－3 東淀川
豊島 11－10 福島女

▼4回戦

薫英 20－10 桜塚
豊島 13－9 桜宮

▼1位決定戦

薫英 19－9 豊島

◎東ブロック予選（8月20～22日）／守口北高、春日丘高

〈男子〉

▼1回戦

枚方 20－5 茨木工
同志社香里 33－6 門真
寝屋川 14－10 高槻北
芥川 15－5 守口北
磯島 25－8 鳥飼
南寝屋川 12－10 城東工
加納 9－8 長尾
淀川工 19－7 関西大倉
牧野 17－5 島本
交野 8－7 四條畷
大東 12－10 茨木東
西寝屋川 24－6 門真南
島上 23－13 茨木
浪商 18－15 春日丘

▼2回戦

三島 21－5 枚方
寝屋川 14－13 同志社香里
磯島 13－4 芥川
加納 18－11 南寝屋川
淀川工 17－10 牧野
交野 9－7 大東
西寝屋川 31－15 島上
摂津 19－14 浪商

▼3回戦

三島 18－8 寝屋川
加納 20－9 磯島
淀川工 18－7 交野
摂津 14－12 西寝屋川

▼4回戦

三島 18－9 加納
淀川工 11－11 摂津（3PTC2）

▼1位決定戦

三島 18－7 淀川工

〈女子〉

▼1回戦

香里丘 11－5 三島
東寝屋川 10－3 大阪市立
茨木 14－5 島本
長尾 9－4 牧野
枚方 22－2 磯島
門真 19－7 高槻北
交野 13－10 大東

▼2回戦

寝屋川 7－5 香里丘
東寝屋川 10－10 芥川（2PTC0）
茨木東 10－7 茨木
西寝屋川 15－3 長尾
枚方 13－12 春日丘
南寝屋川 14－2 守口北
門真 19－6 門真南
摂津 32－3 交野

▼3回戦

寝屋川 13－6 東寝屋川
西寝屋川 26－1 茨木東
枚方 17－2 南寝屋川
摂津 20－11 門真

▼4回戦

西寝屋川 13－4 寝屋川
摂津 17－8 枚方

▼1位決定戦

摂津 17－9 西寝屋川

◎南ブロック予選（8月20～22日）／初芝高、高石高

〈男子〉

▼1回戦

鳳 18－12 泉鳥取
和泉 24－2 久米田
堺西 22－8 長野北
初芝 18－2 商大堺
岸和田 17－9 信太
泉北 8－6 上神谷
和泉工 16－13 富田林
岸和田産 12－11 堺工
金岡 21－14 長野

▼2回戦

鳳 10－9 泉陽
和泉 21－4 貝塚南
堺西 9－9 泉大津（3PTC2）
登美丘 21－16 初芝
岸和田 15－7 高石
泉北 17－7 堺東
岸和田産 13－11 和泉工
三国丘 12－11 金岡

▼3回戦

和泉 20－7 鳳
登美丘 19－8 堺西
岸和田 11－10 泉北
三国丘 16－5 岸和田産

▼4回戦

和泉 22－11 登美丘
三国丘 15－8 岸和田

▼1位決定戦

和泉 10－8 三国丘

〈女子〉

▼1回戦

三国丘 18－2 堺上
鳳 16－10 岸和田産
佐野 19－11 高石
富田林 11－3 堺東
岸和田 11－6 港南
東百舌鳥 14－13 千代田

▼2回戦

住吉学園 14－5 三国丘
鳳 10－5 信太
泉北 13－10 泉大津
泉鳥取 25－3 佐野
久米田 16－5 富田林
長野 20－8 貝塚
貝塚南 18－2 岸和田
初芝 27－3 東百舌鳥

▼3回戦

住吉学園 19－4 鳳
泉鳥取 28－5 泉北
久米田 14－7 長野
初芝 19－4 貝塚南

▼4回戦

住吉学園 18－8 泉鳥取
初芝 8－6 久米田

▼1位決定戦

住吉学園 12－7 初芝

◎中ブロック予選（8月20～22日）／八尾高、阪南高、天王寺高

〈男子〉

▼1回戦

柏原 16－16 住吉（4PTC3）

▼2回戦

大和川 14－8 山本
東住吉 11－5 阿倍野
阪南 15－14 清風
池島 16－9 大商
花園 11－7 藤井寺工
羽曳野 20－3 八尾東
生野 19－8 大教大平野

▼2回戦

桃山学院 41－4 柏原
藤井寺 11－4 大和川
八尾 25－13 東住吉
天王寺 19－11 阪南
上宮 20－4 池島
花園 17－14 高津
羽曳野 17－11 勝山
比花学院 29－9 生野

▼3回戦

桃山学院 30－7 藤井寺
天王寺 18－11 八尾
上宮 20－5 花園
此花学院 26－1 羽曳野

▼4回戦

桃山学院 22－5 天王寺
此花学院 23－10 上宮

▼1位決定戦

桃山学院 16－15 此花学院

〈女子〉

▼1回戦

鶴見商 18－5 高津
阪南 9－4 天王寺
東住吉 12－4 樟蔭東

▼2回戦

四天王寺 14－3 鶴見商
住吉学園 15－4 山本
信愛女学院 キケン 清友
西浦 13－8 大和川
阪南 12－9 大谷
生野 12－9 東大阪
八尾 10－9 八尾東
城南 21－6 東住吉

▼3回戦

四天王寺 34－2 住吉学園
信愛女学院 18－2 西浦
阪南 10－7 生野
城南 18－2 八尾

▼4回戦

四天王寺 20－7 信愛女学院
城南 9－4 阪南

▼1位決定戦

四天王寺 17－4 城南

◎中央大会（8月25、26日／桃山学院高）

〈男子〉

▼1回戦

都島工 7－6 三国丘
此花学院 23－10 摂津
北陽 29－11 和泉
桃山学院 12－11 大商
上宮 22－7 岸和田
天王寺 16－12 淀川工
加納 15－12 登美丘
三島 23－11 桜宮

▼2回戦

此花学院 21－5 都島
桃山学院 10－10 北陽 （2 PTC 1）
上宮 18－6 天王寺
三島 20－13 加納

▼準決勝

此花学院 15－5 桃山学院
上宮 17－17 三島 （3 PTC 2）

▼決勝

此花学院 20（14－5、6－9）14 上宮

〈女子〉

▼1回戦

阪南 27－8 桜塚
泉鳥取 20－9 信愛女学院
四天王寺 22－11 薫英
初芝 11－4 枚方
城南 13－9 桜宮

▼2回戦

住吉学園 17－9 久米田
西寝屋川 13－3 豊島
摂津 16－5 寝屋川
泉鳥取 14－11 阪南
四天王寺 12－4 初芝
住吉学園 12－7 城南
摂津 13－9 西寝屋川

▼準決勝

四天王寺 25－10 泉鳥取
住吉学園 20－10 摂津

▼決勝

住吉学園 15（12－5、3－6）11 四天王寺

第3回千葉県高校ジュニア選手権

（8月22～24日／東邦大付東邦高）

〈男子〉

▼1回戦

小金 キケン 船橋法典

▼2回戦

市川 27－2 小金
柏陵 21－11 千葉南
八千代 11－10 市原
我孫子 17－16 船橋旭
佐原 40－0 京葉
東葛飾 22－10 船橋東
船橋西 21－10 千葉大宮
東京学館 18－9 芝浦工大柏
東京学館浦安 14－12 幕張北
柏南 15－13 市立松戸
拓大紅陵 15－11 浦安南
泉 キケン 二松学舎大沼南
若松 31－10 木更津
流山中央 22－12 生浜
白井 11－9 渋谷学園幕張
東邦大付東邦 26－7 松戸六実

▼3回戦

市川 22－3 柏陵
八千代 17－16 我孫子
佐原 27－12 東葛飾
東京学館 18－14 船橋西
東京学館浦安 24－13 柏南
泉 20－17 拓大紅陵
若松 16－11 流山中央
東邦大付東邦 30－2 白井

▼準決勝

市川 23－2 八千代
佐原 23－12 東京学館
東京学館浦安 23－5 泉
東邦大付東邦 23－11 若松

▼決勝リーグ

市川 18－8 佐原
東邦大付東邦 25－14 東京学館浦安
東京学館浦安 13－11 佐原
市川 15－15 東邦大付東邦
市川 18－14 東京学館浦安
東邦大付東邦 16－15 佐原

［順位］①東邦大付東邦②市川③東京学館浦安④佐原（1、2位は得失点差による）※東邦大付東邦は初優勝。

〈女子〉

▼1回戦

聖徳短大付 11－10 御宿家政
渋谷学園幕張 7－6 千葉大宮
柏南 21－5 幕張北
東邦大付東邦 17－13 東葛飾
流山中央 25－2 松戸六実
泉 21－3 白井
佐原女 キケン 千葉明徳

▼2回戦

佐原 11－9 聖徳短大付
柏南 29－1 渋谷学園幕張
東邦大付東邦 12－5 流山中央
佐原女 18－6 泉

▼決勝リーグ

佐原 11－6 柏南
東邦大付東邦 8－4 佐原女
東邦大付東邦 12－5 柏南
佐原 9－9 佐原女

東邦大付東邦 8－8 佐原
佐原女 17－4 柏南
[順位]①東邦大付東邦②佐原③佐原女④柏南
※東邦大東邦は初優勝。

男子23回女子12回中四国学生秋季リーグ戦

(8月28～30日／松江市総合体育館)

▼男子1部
山口大 23－10 愛媛大
山口大 37－18 松山商大
山口大 35－21 岡山大
山口大 35－19 広島大
広島大 30－15 愛媛大
広島大 27－16 松山商大
広島大 24－19 岡山大
松山商大 23－23 愛媛大
松山商大 31－20 岡山大
愛媛大 20－20 岡山大
[順位]①山口大②広島大③松山商大④愛媛大⑤岡山大

▼男子2部
島根大 44－20 鳥取大
島根大 31－19 広島修道大
島根大 33－30 高知大
島根大 42－26 香川大
高知大 35－24 鳥取大
高知大 23－23 広島修道大
高知大 27－24 香川大
広島修道大 33－24 鳥取大
広島修道大 29－27 香川大
香川大 38－21 鳥取大
[順位]①島根大②高知大③広島修道大④香川大⑤鳥取大

▼男子3部
徳山大 35－21 徳島大
徳山大 42－16 広島工大
徳山大 41－19 岡山理大
徳山大 35－18 近大呉工
徳島大 28－16 広島工大
徳島大 44－14 岡山理大
徳島大 35－13 近大呉工
広島工大 17－12 岡山理大
広島工大 29－17 近大呉工
近代呉工 24－14 岡山理大
[順位]①徳山大②徳島大③広島工大④近大呉工⑤岡山理大

▼女子
○Aリーグ
山口大 33－1 四国学院
山口大 30－8 広島大
山口大 29－16 香川大
広島大 31－7 四国学院
広島大 25－19 香川大
香川大 29－16 四国学院
[Aリーグ順位]①山口大②広島大③香川大④四国学院
○Bリーグ
岡山県短大 34－12 岡山大
岡山県短大 24－19 高知大
高知大 25－18 岡山大
[Bリーグ順位]①岡山県短大②高知大③岡山大
○5位決定戦
香川大 19－14 岡山大
○3位決定戦
高知大 28－22 広島大
○決勝
山口大 26－19 岡山県短大
[総合順位]①山口大②岡山県短大③高知大④広島大⑤香川大⑥岡山大⑦四国学院

第6回北信越国体

(8月31日～9月1日／氷見市総合体育館)

〈成年女子〉
▼1回戦
長野 23－12 新潟
▼準決勝
福井 30－16 長野
石川 25－13 富山
▼決勝
石川 32 (19－8, 13－2) 10 福井

〈少年男子〉
▼1回戦
石川 33－13 長野
▼準決勝
石川 25－13 福井
富山 24－10 新潟
▼決勝
石川 25 (14－7, 11－10) 17 富山

〈少年女子〉
▼1回戦
石川 19－15 富山
▼準決勝
石川 23－7 福井
新潟 13－10 長野
▼決勝
石川 21 (13－4, 8－3) 7 新潟

関東実業団選手権

(8月31日～9月1日／相模原市総合体育館他)

▼1回戦
三井石化千葉 19－17 日本原研
東京重機 26－15 出光千葉
日本発条 24－20 コスモ石油
▼2回戦
三景 29－8 三井石化千葉
海自下総 29－19 東京重機
日本発条 キケン 自衛隊久里浜
中村荷役大井 33－16 日産石油化学
▼3回戦
大崎電気 23－18 三景
セントラル自動車 30－15 海自下総
中村荷役 19－16 日本発条
三陽商会 27－16 中村荷役大井
▼準決勝
大崎電気 30－18 セントラル自動車
三陽商会 36－22 中村荷役
▼決勝
大崎電気 27 (13－13, 14－11) 24 三陽商会
▼敗者復活戦
コスモ石油 19－17 出光千葉
日本原研 キケン 日産石油化学

第36回三重県総合選手権

(8月25、9月1、15日／津東高)

〈男子〉
▼1回戦
九華ク 21－20 日生二高
三重教員B 33－20 鈴鹿高専B
四日市四郷高 16－15 津東高C
四日市工高B 48－12 海星高OB
海星高A 19－17 津東高A
亀山高A 26－17 七和クB
本田技研 53－2 桑名西高B
尾鷲高B 27－7 高田高A
四日市工高A 25－17 四日市高
鷲球会 22－10 四日市西高
四日市中央ク 31－11 海星高B
半田ク 27－10 日生一高
四日市南高 21－11 津高
尾鷲ク 35－13 七和クA
津東高B 23－5 朝明高
桑名西高A キケン 三菱油化
鈴鹿高専A 16－14 亀山高B
ジャスコ 32－8 桑名工高
桜ク 20－14 津工高B
桑名北高 27－4 四日市中央工高A
▼2回戦
三重教員B 37－24 津西高
本田爽風会 35－12 九華ク
皇学館大 25－23 海星高A
四日市工高B 29－9 尾鷲高A
本田ク 40－17 半田ク
鵜ノ森ク 19－15 桑名西高A

四日市西高 11－5 暁高OG
むつみヶ丘ク 25－2 松阪女高
三重大 15－6 泗商OGA
上野高 24－2 桑名高

ジャスコ 28－9 津工高A
鷲球会 12－9 桑名高
三重教員A 41－7 尾鷲高B
四日市中央ク 21－13 三重大B
四日市工高A 24－14 三重大A
四日市西郷高 26－19 四日市中央工OB
桜ク 19－13 亀山高B
本田技研 51－7 四日市南高
津東高B 14－8 桑名北高
尾鷲ク 34－26 鈴鹿高専B

▼3回戦
本田爽風会 29－16 三重教員B
四日市工高B 42－10 四日市西郷高
桜ク 27－20 皇学館大
本田技研 40－13 四日市工高A
本田ク 29－17 鵜ノ森ク
鷲球会 21－17 津東高B
尾鷲ク 26－25 ジャスコ
三重教員A 24－15 四日市中央ク

▼4回戦
本田爽風会 35－18 四日市工高B
本田技研 53－7 桜ク
本田ク 31－11 鷲球会
三重教員A 27－15 尾鷲ク

▼準決勝
本田技研 27－14 本田爽風会
本田ク 28－22 三重教員B

▼決勝
本田技研 31（15－3，16－7）10 本田ク

〈女子〉

▼1回戦
尾鷲ク 17－7 泗商OGB
亀山高B キケン 津高
四日市南高 16－15 上野高OG
亀山高A 11－4 津西高
桑名北高 キケン 朝明高
泗商B 19－6 尾鷲高A
四日市西郷高 13－3 尾鷲高B
泗商A 17－4 三重教員
ウェーブ 13－10 四日市高

▼2回戦
暁高A 30－2 尾鷲ク
津東高 6－4 桑名北高
暁高B 37－4 ウェーブ
四日市南高 27－8 亀山高B
泗商B 18－6 上野高
むつみヶ丘ク 15－6 亀山高A
泗商A 18－4 四日市西郷高
四日市西高 14－7 三重大

▼3回戦
暁高A 12－9 四日市南高
泗商B 14－9 津東高
四日市西高 12－7 むつみヶ丘ク
暁高B 23－8 泗商A

▼準決勝
暁高B 15－7 泗商B
暁高A 6－4 四日市西高

▼決勝
暁高B 18（9－5，9－4）9 暁高A

第12回東北総体

（9月6～8日／青森県野辺地町）

〈成年男子〉

▼1回戦
全青森 31－27 宮城教員
学法石川高ク 31－20 山形ク

▼準決勝
花巻ク 34－15 全青森
湯沢ク 29－26 学法石川高ク

▼決勝
花巻ク 30（18－12，12－10）22 湯沢ク

〈成年女子〉

▼1回戦
聖和ク 43－10 米沢女高OG会
全和洋 27－24 全青森

▼準決勝
ムネカタ 29－13 聖和ク
岩手桐花ク 19－16 全和洋

▼決勝
ムネカタ 31（12－9，19－7）16 岩手桐花ク

〈少年男子〉

▼1回戦
全岩手 33－14 山形選抜
学法石川高 19－17 湯沢高

▼準決勝
全岩手 28－18 古川工高
全青森 23－21 学法石川高

▼決勝
全岩手 26（13－8，13－13）21 全青森

〈少年女子〉

▼1回戦
大曲農高 19－14 全岩手
全山形 20－16 全青森

▼準決勝
大曲農高 19－13 聖和学園高
郡山女高 21－18 全山形

▼決勝
大曲農高 14（6－5，8－5）10 郡山女高

国体関東予選

（9月7～9日／富岡高他）

＜成年女子＞

▼1回戦
東京重機（東京） 29－24 群馬選抜
神奈川選抜 26－23 千葉選抜
大崎電気（埼玉） 28－16 山梨選抜
日立栃木（栃木） 25－19 日本ビクター（茨城）

▼準決勝
東京重機 22－14 神奈川選抜
日立栃木 20－15 大崎電気

▼決勝
日立栃木 30（20－6，10－7）13 東京重機

〈少年男子〉

▼1回戦
群馬 24－18 茨城
神奈川 20－18 埼玉
東京 21－13 栃木
山梨 18－16 千葉

▼準決勝
群馬 22－18 神奈川
山梨 19－18 東京

▼決勝
群馬 19（11－8，8－7）15 山梨

〈少年女子〉

▼1回戦
茨城 17－12 群馬
埼玉 16－11 山梨
千葉 22－17 栃木
東京 23－11 神奈川

▼準決勝
埼玉 16－10 茨城
千葉 17－15 東京

▼決勝
千葉 13（7－6，6－6）12 埼玉

お願い

この欄では各地の記録をなるべく早く、沢山掲載したいと考えています。各地の協会の方々は、出来るだけ各種大会が終了次第、日本協会機関誌編集委員会あて結果をお知らせ下さい。

よろしくお願いします。

機関誌編集委員会

告知板

11月～12月の大会

◆**第10回日本リーグ後期**
（11月 2 日～24日：日本各地）

◆**第17回全日本自衛隊選手権大会**
（11月12日～14日：東京・駒沢体育館）

◆**第28回全日本学生選手権大会**
（11月20日～24日：山口・山口県体育館）

◆**第37回全日本総合選手権大会**
（12月17日～21日：東京体育館）

強化部だより

男子ナショナル第７次合宿

◦**日程**：９月24日～29日
◦**場所**：日新製鋼呉
●**参加者**
◦コーチ　佐藤要二、津川昭
◦選　手　大畑孝広、志賀良弘、井藤英忠、西山清、田口隆、奥田新二、藤井泉、矢内浩、朝生和光、玉村健次、荷川取義浩、酒巻清治、首藤信一、山本興道、立木浩二、内藤裕治
●**目的**
世界選手権アジア予選前の強化合宿
●**合宿内容**
〈９月24日〉
• 15時集合
• 16：00～18：00　海上自衛隊体育館にて練習。主にハ・Ｖ・ビデオの練続攻撃練習。
〈９月25日〉
• ９：30～11：40　基礎トレーニング及びディフェンス。
• 14：00～17：00　Ｘ攻撃の説明及びトレーニング。日新と練習試合。
〈９月26日〉
• ９：30～12：00　広島サンプラザにて練習。
• 15：00～17：00　湧永製薬との練習試合２ゲーム。田口左上ヒザじん帯をのばす。
〈９月27日〉
• ９：30～11：40　連続プレーの練習。
• 14：00～17：30　日新と練習試合。試合後個人練習。首藤、後頭部強打→一晩入院。
〈９月28日〉
• ９：30～11：30　Ｘから展開へもっていく練習。
• 14：00～16：30　フォーメーションの確認。
〈９月29日〉
• ９：30～11：30　日新との練習試合。
●**成果**
予選を前にしてチームのまとまりが一段と進んだ。特に、今回攻撃のきっかけにするＸ攻撃を取り入れ、全員意欲的に取り組み、攻撃のバランスが非常によくなった。また、コンビプレーを連続することにより破壊力も出てきた。役割をしっかり確認させることにより速攻の出だしもずいぶんよくなった。
●**今後の課題**
今までハ・Ｖ・ビデオ、Ｘの攻撃方法ととってきたが、１・５ディフェンス対策として今ひとつ基本攻撃方法を追加しなければならない。
選手がやはり一線ディフェンスに慣れているため、１・５にするとディフェンス力が落ちる。最低２種類のディフェンス・シフトは必要であり、次回の合宿において強化したい。

賛助会通信

賛助会の輪をもっと広げよう

——１月で会員証が切りかえになります——

ハンドボールはどうして民放テレビに映らないのか？ハンドボール愛好者がいつも口にする言葉です。そうです。ハンドボールが電波に乗るのは、ＮＨＫ教育テレビの全日本総合とスポーツニュースぐらいです。民放の放映には何千万円という金がかかります。そのためのスポンサーがつくかつかないかは視聴率、観客動員次第です。日本協会でも、スポンサーの交渉はしていますが、どちらがにわとりか卵かはともかく、並行してハンドボールの試合を見ていただくファンを多く集めていただくことが大切です。

賛助会の年度は、暫定的に１月から12月までとなっています。賛助会費収入から機関紙増刷及び送料等の経費を控除した残金は、ナショナルチームの強化や普及事業などの財源にあてられています。

選手強化には相当な金がかかるうえ、ロス・オリンピックで痛感されたように若手選手（高校生から中学生まで）の育成強化にはこれまで以上に金がかかります。

また、日本協会は、小学校に対するハンドボールの普及を当面の最大の課題としています（これが頂点強化にもつながります。）それが親子ハンドボールにつながって、ハンドボールの輪はますます大きくなっていく……。

どうか賛助会の皆さんも、そのような輪の核となって、その輪をもっともっと大きくしていって欲しいと思います。お一人が２名、３名の知人を誘っていただければ、会員の数は直ちに数倍になります。

会員の特典として、特別頒価のビデオの製作監修が具体化しつつあります。「賛助会だより」は、当分この「賛助会通信」で代えさせていただきます。いろいろなご意見をお寄せください。

また、賛助会の幹事（パーティーなどの世話役）を募っておりますので、ご希望の方はご連絡をお待ちしています。

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育館内
（財）日本ハンドボール協会賛助会
TEL (03) 481-2361（代）

▶60年度会員

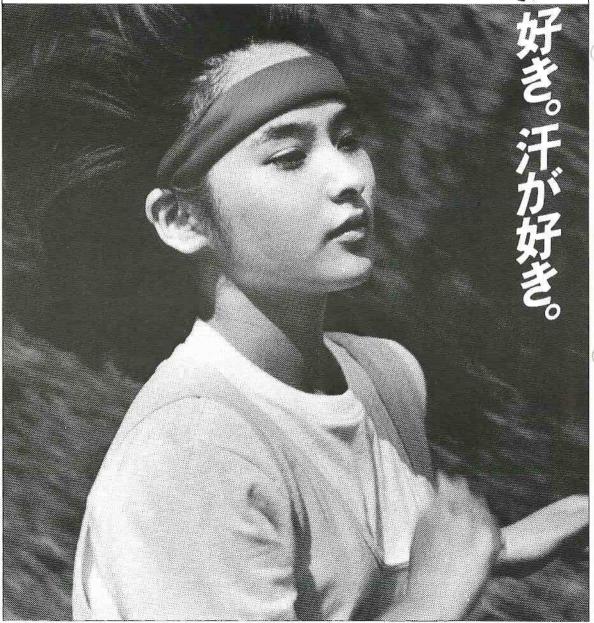
◎特別法人会員

東京重機工業㈱、伊藤忠商事㈱、立石電機㈱、本田技研工業㈱鈴鹿製作所、大崎電気工業㈱、本田技研工業㈱熊本製作所、日新製鋼㈱、呉製鉄所、ジャスコ㈱、中村荷役運輸㈱、㈱日立製作所栃木工場、㈱大和銀行、㈱北国銀行、東北ムネカタ㈱、大同特殊鋼㈱、トヨタ自動車㈱、㈱三景、新日本製鉄㈱、湧永製薬㈱、㈱三陽商会

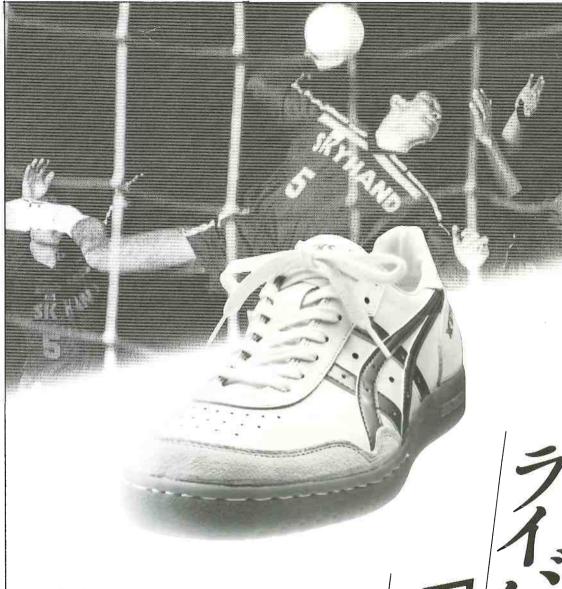
◎特別個人会員

斎藤英四郎（日本協会・東京都）、荒川清美、武田喜三、大野金一（同）、武内史衛（日本協会公認会計士）、阿部二郎（日本協会・茨城県）、黒田富郎（日本協会・日野市）、村田弘（日本協会・堺市）、柳井文治（日本協会・下松市）、中沢重夫（日本協会・東京都）、幸村稔（名古屋市）、木下浩次（名古屋市）、大西武三（日本協会・茨城県）、金原至（日本協会・氷見市）、三鴨博（立川市）、幡谷祐一（水戸市）、日野博（北九州市）、北川勇喜（日本協会・横浜市）、安藤純光（日本協会・日野市）、滝口三郎（日本協会・東京都）、平井博道（大阪市）、福島富造（富田林市）、富永部（日本協会・水戸市）、田中滋章（日本協会・名古屋市）、木下秀男（佐久市）、北原佐久生（長野県）、油井孝一郎（佐久市）、新津真澄（長野県）、柳沢民弥（日本協会・佐久市）、井田萬三郎（浦和市）、乃村正数（坂出市）、中根武彦（日本協会・亀山市）、藤田八郎（日本協会・熊本市）、入江信太郎（日本協会・茨城県）、滝沢武（栃木市）、山田稔（日本協会・藤井寺市）、岡田卓也（東京都）、高田日呂美（日本協会・東京都）、渡辺慶寿（日本協会・宇都宮市）、岡前義春（日本協会・府中市）、嶋田新太郎（氷見市）、川上整司（日本協会・狭山市）、宇津野年一（名古屋市）、李寿旭（東八代郡）、里和則（日本協会・境港市）、竹内義文（横浜市）、新家谷隆夫（大阪市）、平野恭夫（津島市）、荏畑平男（大阪市）、近藤金博（日本協会・日野市）、奥村真人（宮崎市）、菅野富夫（東京都）、清水正（日本協会・甲府市）、古屋正（塩山市）、佐野和夫（東京都）

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二四六号
昭和四十年六月十
第三種郵便物認可
昭和六十年十月二十五日 印刷
昭和六十年十一月一日 発行

ライバルは「世界」。

トップ選手用〈スカイハンド®スペシャル〉

〈スカイハンド®スペシャル〉は、多くのトップ選手に履かれています。軽くてショック吸収性が高いE・V・A素材内蔵のカップソール、力を加えると変形してフロアをとらえる底デザインなど、優れた機能がトップ選手のフットワークに100%こたえています。まさに世界と闘うための一足です。

スカイハンド®スペシャル (THH705)
- 甲被はオテア表革(ホワイト)、牛革ベロア(レッド、ロイヤルブルー)
- ホワイト×レッド、レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト
- サイズ 22.5〜28.0cm 標準小売価格 ¥12,800

asics TIGER
Handball Shoes
スカイハンド®スペシャル

株式会社アシックス

東京都渋谷区 一一一一一 編集兼
電話 代表 (4)二三六一
振替 東京 六一五八三四八番 発行人 大野金一

定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)